

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センターかしのき園（毎日通園）		
○保護者評価実施期間	令和7年 11月 1日		～ 令和7年 11月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数) 14
○従業者評価実施期間	令和7年 11月 1日		～ 令和7年 11月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 11
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 18日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員の人数が定数より多いため、個別でのサポートができる。	少人数のクラス体制にすることで、子どもが安心して過ごし、職員と一緒に活動や物事に取り組む中で、様々な習得ができるようにしている。	施設の特徴を理解し、今までの取り組みを継続して行っていく。
2	こども園が隣接しているため、園児同士の交流ができる。	職員がこども園に勉強に行き、健常児の集団を学ぶ機会を作っている。 また、こども園の職員にも勉強に来てもらっている。	職員の学びを深めるため、こども園に行く回数を増やしている。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	正規職員で5～10年以上の経験のある者が少ない。	経験のあるパート職員が多いため、正規職員が育っていない。 また、若手職員が続かない。（1～3年で退職する者もいる）	退職が最小限にできるよう、職員間のコミュニケーションを含めて、労働環境を今以上に整えていきたい。 若手職員の意識も改善が必要である。
2	保育所等訪問支援の訪問支援員が手薄のため、ケース数が最小限となっている。	外部の状況に応じた助言等が独自でできる職員が少ない。	引き続き、職員の育成を行っていく。
3	地域との交流がほとんどない。	施設自体が地域の方との関りが持てていない。	隣接のこども園の地域交流行事に参加を増やしていきたい。